

薬連ハイライズ

全国会長・幹事長拡大会議 開催される

令和3年5月13日（木）、AP日本橋を主会場とし、都道府県とリモートで結び、令和3年度第1回全国会長・幹事長拡大会議が開催された。司会は原口常任総務。冒頭、山本会長の挨拶では、最近の日本薬剤師連盟活動について、新型コロナウイルスワクチン接種に係る対応、骨太の方針を念頭においての来年度予算及び税制改正への要望、更に日本薬剤師会の政策提言等について説明されるとともに、組織内統一候補に選任された神谷まさゆき副会長の活動を強力に支援し、藤井基之参議院議員の跡をしっかりと受け継ぐ体制を構築すること、2名体制を堅持することについて決意を示された。

議事に入り、石井副会長より令和2年度下期に実施された主要会議、都道府県薬剤師連盟主催「若手薬剤師指導者育成フォーラム」について、また、直近の政治課題として、経済財政諮問会議、財政制度等審議会、規制改革推進会議等について、それぞれ報告がなされた。

神谷まさゆき中央後援会活動に関する協議では、組織体制、後援会全体スケジュールについて執行部より説明があった。大澤副会長からは名簿収集全体

スケジュールの説明と、都道府県別の状況が説明された。更に出席した全ての都道府県代表から名簿収集の進捗状況並びに今後の活動予定が報告された。また、活動助成金について執行部から説明がなされた。

次に、鳥海副会長から広報関連について、現在のホームページ、メールマガジン、LINEやFacebook等のSNS閲覧登録状況の報告がなされた。更に支援団体報告として日本薬業政治連盟の支援活動について報告があり、浜田副幹事長の閉会挨拶で本会議は終了した。

神谷まさゆき副会長、全国支部訪問を語る

本会議中、神谷まさゆき副会長が挨拶に立ち、一年前に組織内統一候補として選出された際の覚悟と、直後より全国訪問を通じて、様々な地域における医療の特性と課題、そして薬業界や薬剤師への強い思いに直接触れることができたことが自身の大きな成長の糧となったことを語った。そして「現場で汗を流しているすべての薬剤師の皆様から伝えていただいた熱いご支持に対し、必ずその恩に報いるべく今後も活動していく。」と力強い決意が示された。

もとゆき便り

ワクチン開発・生産体制強化の国家戦略

厚生労働委員会
自由民主党政務調査会会長代理
参議院議員・薬剤師
藤井 もとゆき



新型コロナウイルス感染症によるパンデミックは、社会生活や経済活動に大きな影響を及ぼしています。他方、ワクチンの接種が進む、英国、米国、イスラエル等では日常を取り戻しつつあります。国内でもワクチン接種は進められていますが、当面は輸入ワクチンに頼らざるを得ない状況にあります。

政府は6月1日、こうした実情を踏まえ我が国のワクチン開発を滞らせた要因を明らかにし、解決に向けて政府が一体となって長期継続的に取り組む「ワクチン開発・生産体制強化戦略」を閣議決定しました。

この戦略の中で、新型コロナウイルス感染症への喫緊の対応として、「すでに先発のワクチンが使用されている中で第Ⅲ相試験のために数万件の被験者を確保することは困難であり、ICMRA（薬事規制当局国際連携組織）において、ワクチン接種後の血中中和抗体価の上昇など、補完的指標の活用について議論されており、最終的なコンセンサスが得られる前から、そのコンセンサスの方針を先取りして、国内企業での検証試験を開始し、速やかに完了できるよう政府として強力に支援する。」ことも記されています。

第Ⅲ相の大規模検証試験実施の困難さは委員会質疑で常々指摘してきたところであり、こうした内容が盛り込まれたことは、大いに歓迎したいと思います。

オレンジ日記

国会審議と時間管理

自民党厚生労働部会副部会長
参議院議員・薬剤師
本田 顕子



日本国憲法第41条は、国会を「国権の最高機関であり、国の唯一の立法機関である」と定めています。常に「国民の代表機関」としての役割を担っています。

本会議は議員全員の会議で議院の最終的な意思を決定しますが、法案等が本会議に上程されるまでの委員会等での質疑も大変重要です。

国会議員となって先輩議員に一番に言われたのが、時間管理の厳しさです。

「本会議、議院運営委員会、常任委員会等、国会議員として所属するこれらの会議は与野党の綿密な調整によって開催され、時の情勢によって変化するが、それと同じくらい重要なのが、定足数があり、時折、委員の中から定足数を欠いている旨の指摘が上がり、議事の進行が滞ることもある。」ということを伺いました。

私はこうした話は、別次元の遠い話と思っておりましたら、今国会中、委員会が休憩後再開に至らなかつたことがあります。委員の遅刻が原因でした。定足数は満たしていたのですが、政府与党は法案の審議をお願いしている立場ですので、委員会優先が前提となるため、更に高い時間管理の厳しさ、連絡体制の徹底を求められたものでした。散会となってしまった委員会を再度開会するための与野党間の調整に多大な時間がかかりました。国会審議において時間管理がいかに厳しいものかを改めて感じました。